平成２８年第１１回たつの市教育委員会定例会議事日程

と　き　平成２８年１０月２０日（木）午後２時
ところ　分庁舎ホール

１　開会宣言
２　会議録署名委員の指名
３　教育長諸報告
（１）たつの市議会第５回定例会日程について
（２）「全国学力・学習状況調査」について（当日資料）
（３）たつの市心身障害児就学指導委員会について
（４）トライやる・ウイークの実施について
（５）第１１回たつの市美術展について
（６）不登校・いじめについて
（７）その他
４　議事
５　自由討議
６　閉会宣言

平成２８年第１１回たつの市教育委員会定例会会議録

と　き　平成２８年１０月２０日（木）午後２時００分

ところ　たつの市役所分庁舎ホール

委員長　ただ今から、平成２８年第１１回たつの市教育委員会定例会を開会いたします。
それではまず始めに、会議録署名委員の指名を行います。●●委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。
次に、会議の公開又は非公開の決定を行いたいと思います。
教育長諸報告のうち、「「全国学力・学習状況調査」について」、「たつの市心身障害児就学指導委員会について」、「不登校・いじめについて」及びその他個人情報に関する案件につきましては、たつの市教育委員会会議規則第９条第１項第７号の規定により、非公開にすることが適切であると思われます。
賛成の方は挙手願います。

＜　挙手　＞

賛成が出席委員の３分の２以上の多数と認め、非公開と決定します。
本日は、傍聴人の方がいらっしゃいますので、先に公開案件を審議した後、非公開案件の審議に移りたいと思います。
それでは、教育長諸報告に入ります。教育長、お願いします。

教育長　始めに、平成２８年第５回たつの市議会定例会（１２月議会）の日程について御報告いたします。
第５回定例会につきましては、１２月２日金曜日の１０時から第１日が開催され、議案説明及び質疑等が行われます。１５日木曜日、１６日金曜日に第２日、第３日が開催され、一般質問が行われます。２２日木曜日に最終日ということで、委員長報告及び議案の表決が行われます。１２月ですので、新しい委員長の出席をお願いしたいと思います。
また、１２月７日水曜日には、１０時から福祉文教常任委員会が開催されることになっております。以上で、第５回定例会の日程について報告を終わります。
次に、トライやる・ウィークの実施と第１１回たつの市美術展につきましては、それぞれ担当課長から報告をさせていただきます。

事務局　平成１０年度から毎年実施しております、トライやる・ウイークについて、今年度の実施内容を御報告いたします。目的としては、勤労体験等を通じて感謝の心を育み、自立性を高めるなど「生きる力」の育成を図るというものです。日程は１１月７日から１１月１１日までの５日間となっております。対象は、市内中学校の２年生６９４名です。それぞれが活動する事業所の数は資料のとおりですが、生徒数６９４名に対して、事業所数は延べ２８６となっております。
主な活動内容については、職場体験活動を中心といたしまして、既に中学校ではそれぞれの生徒の行き先も決まって、準備を進めているところでございます。それ以外に、文化活動やボランティア活動などもございます。
この体験によって、例えば消防署に行った子が、実際に消防隊員となって勤務していたり、今でも自分の行った事業所と関わりを持っているという例もありますので、非常に有意義な事業だと考えております。トライやるウィークについては、以上です。
なお、お手元にサイエンスリーダー育成事業として、追加で３枚資料をお配りしております。この事業は、科学的な体験を通して児童の理科に対する興味・感心を高めたり、科学的な見方や考え方を養うことを目的に実施しているものです。
一つは、兵庫県立大学の教授や准教授に学校に来ていただいて、「アメーバーの観察」（生物分野）や「大地の変化」（地学分野）について具体的に授業をしていただくことになっております。日程や対象校については資料のとおりです。
また、高校生に小学校に来てもらい、一緒に活動しながら授業をしてもらうという事業もあります。一つは、龍野高校の生徒と光ファイバーツリー制作を行うもの、

もう一つは、龍野北高校の生徒と電磁石を活用した無限ゴマ制作を行うものです。以上です。

事務局　それでは、第１１回たつの市美術展についての御報告をさせていただきます。

９月２７日火曜日から１０月２日日曜日まで開催いたしまして、皆様の御協力をいただきまして、無事盛況のうちに終了いたしました。

６０数年の歴史を持つ、このたつの市美術展は、昨年は市制１０周年記念事業として非常に多くの作品が集まりました。今年度も昨年度と同数の５４８点の応募をいただきました。６日間という短い会期ではありましたが、延べ３，６０２人が来場され作品に見入られておりました。資料には作品数の一覧を掲載しております。５４８点の応募のうち、入賞が５０作品、入選が３１５作品となっております。たつの市民の出品は全体の約２６％、姫路市からの出品が多く約４２％となっております。１０月２日には分庁舎ホールにて、入賞された皆様をお招きし、委員長、教育長、美術協会会長を始め、各種団体からも御出席を賜りまして、表彰式を行いました。各部門の受賞者については、資料を御覧ください。以上です。

委員長　ありがとうございました。

公開案件の教育長諸報告が終わりました。質疑に入ります。

委員　トライやるウィークですが、平成１０年度からということで、もうすぐ２０年を迎えることとなりますが、消防職員になられた方の話や、事業所との交流が続いているという話をお聞きして、感謝の心や自立性を高めて、「生きる力」の育成を図るということで、生徒の側の効果というものはあったかと思いますが、受け入れた事業所の側も得られるものというか、相互の関係がないと事業所の御負担も大きいと思います。そのような意味で事業評価というものがなされているのでしょうか。

やはり中学２年生というとまだ「労働」という意識が薄かったりするためか、コンビニエンスストアやドラッグストアなどで働いている姿を見ると、お店の方がいらっしゃらない時に端の方で座って違うことをしていたり、という様子が見受けられまして、なかなかお店の方も目が行き届かないと思いますので、これが一つの事業であるという学校側の意識づけをきちんとしないと、この事業に対する市民の目も厳しくなってくるのではないかという心配もあります。事業評価がちゃんとなされているのか、このまま継続で良いのかというところを教えていただきたいと思います。

事務局　事業評価ですが、毎年、子ども達の感想、事業所の御意見、保護者の御意見を集約しまして、一冊の報告書にまとめて関係事業所にもお配りしております。各学校でも作成しますし、市教委としても報告書を作成します。

中身ですが、事業所の方の評価としては、中学生への理解を深めることができたということ、確かに手がかかるということもありますが、中学生と関わることで地域に貢献できる面があり、先ほど中学生の態度が良くないという話もありましたが、逆に、中学生が非常に爽やかで大きな声であいさつをしてくれるのが、事業所の他の職員にとってもいい刺激になるという評価もいただいております。事業所に無理をお願いしている面もありますが、このような声もいただいておりますし、それが冊子になって保護者や生徒にも伝わりますので、非常に効果的な事業だと考えております。

委員　同じくトライやるウィークのことですが、事業所によっては危険な作業内容もありますが、保険についてはどうなっていますか。

事務局　トライやるウィークは兵庫県の事業ですので、保険は県が負担しています。

委員　親御さんにも報告書が配られるわけですね。こういう機会を捉えて、親子で仕事、特に親がしている仕事について詳しく話をしてやってほしいと思います。というのは、私が現役の頃、小学校ですが、高学年の児童に家の人の仕事を尋ねても、会社員ということまでしか言えない子が半数以上でした。良くて父親の会社の名前が言える程度です。会社でどんな仕事をしているか聞いても、ほとんどが何をしているかわかっていない。

今でもそうだろうと思いますが、親も子供に対していい恰好がしたいわけです。最近の大手企業なら特にそうですが、昔みたいに油まみれで働いてそのまま帰ってくるようなことはほとんどありません。仕事が終わればきれいに着替えて車で帰ってくる。そうすると、お父さんは楽をして給料をもらっている、という言い方をする人がいるんです。だから、いわゆる親への尊敬の念もなければ、労働が厳しいものだという意識も薄い。我々の時代は、学校から帰ってきたら親と一緒に田んぼへ

行ったり畑を行ったりして仕事をしましたが、今の子は、親もそうですが、ほとんど田んぼとは関わりのない生活をしています。田んぼがあっても親だけがしていることが多く、労働に関わるということがほとんどありません。

親もどうしてもいい恰好がしたい、という思いがありますから、いい車に乗って仕事に行き、帰ってきたら涼しい所でビールを飲んで横たわっている、そういう姿を見て、お父さんは…ということになります。お母さんの仕事は目の当たりにしているから、「お母さんは洗濯したり食事を作ったりして大変だ」という思いがある。ところがお父さんの値打ちがあまりない。親自身もほとんど話をしていないのが現実だと思います。だから、このような機会を捉えて、親が苦労していることをしっかり話してやってほしい。

トライやるウィークで行った現場にしても、お客さんを抱えたようなものです。お客さん扱いされて、少々失敗しても大丈夫だと済ましてもらえる、そういう意味では、本当の労働の大切さというものは、１週間行ってもなかなかわからないと思います。ですから、ちゃんと親と話をする機会に充てていただけたら、もう少し値打ちがあるのではないかと思うので、できれば学校側から話をしてもらえたらと思います。

委員　以前勤めていた県では、親の職場に子どもが一緒に行って、一日中、親の仕事を傍で見ているというような事業がありました。

トライやるウィークについても、マンネリ化しないように検討していただきたいと思います。

事務局　貴重な御意見をありがとうございました。今いただいた御意見については、トライやるウィーク推進委員会でもまた話をしていきたいと思います。確かに、子どもたちにとっては親が働く姿がどんどん見えない状態になっているというのはよく言われていることだと思います。せめて、報告書の冊子が届く際には話題にしてほしい、ということを私の方から学校に話をし、学校の方からも伝わるように工夫していきたいと思います。ありがとうございました。

委員長　トライやるウィークに関しては、各委員と私も同じ意見です。

継続事業にありがちですが、事業をやるための事業に陥らないように、新しい展開を「教育」という観点・視点から、委員からの御指摘にもありましたように、労働や親子関係など、いろいろな広がりを持たせていっていただけたらいいと思います。その辺りは現場の方でよく御検討いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから、サイエンスリーダーの事業ですが、近年、喜ばしいことに日本からノーベル賞受賞者が毎年のように出ております。夢は大きく、本市からもそのような人材を輩出できるように、せっかく兵庫県立大学がありますので、このような事業をどんどん進めて機会を増やしていただいて、様々なチャンスを子ども達に与えるような施策をお願いしたい。大学の先生に小学生が教えてもらえるというのは、絶好のチャンスだと思いますので、興味を持って子ども達が臨めるようにしていただけたらと思います。また、高校生が小学生に教えるというのは、高校生にとっても良い経験となると思います。非常に良い事業だと思いますので、次々と素晴らしい展開をお願いします。

他に御意見がないようでしたら、教育長諸報告を終わります。

本日は議事がありませんので、自由討議に入ります。どなたか、討議事項をお持ちの方はおられますか。

無いようでしたら、自由討議を終わります。

ここからは、非公開案件の審議に移りたいと思います。

恐れ入りますが、傍聴人の方は御退席願います。

＜　傍聴人退席　＞

委員長　それでは、教育長諸報告のうち非公開案件の報告をお願いします。

教育長　＜　非公開案件の報告、質疑、応答　＞

以上で、第１１回たつの市教育委員会定例会の日程は全て終了しました。これをもちまして、閉会いたします。

午後３時２０分終了

出席者

委員長	湯本　浩一
委員長職務代行者	大林　敬正
委員	菅野　夏子
委員	矢木隆一郎
教育長	中本　敏郎
教育管理部長	小谷　真也
教育事業部長	藤井　一重
教育事業部参事	片岡　利夫
教育総務課長	森川　智司
施設課長	和田　利恵
学校教育課長	道前　弘志
社会教育課長	加藤　真司
歴史文化財課長	岸本　道昭
人権教育推進課長	新家　洋一
体育振興課長	西田　豊和